

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	子ども青少年課	
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	佐久山 久美子	内線 691-6411
小施策	2-2	育児不安の軽減	評価 シート 作成者	加藤 勝	内線 691-6412

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・子育てに不安を持つ保護者の相談や虐待事例の通報が増加傾向にあることから、切れ目ない支援体制による子育て支援サービスの一層の充実が求められている。 ・子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安心で安全な活動拠点づくりが求められている。		情報提供や育児相談、活動拠点となる児童福祉施設の充実を図り、子育てに悩まず、母子の健康が保たれ、地域の人々のやさしさに包まれて、次世代を担う子どもたちが、心豊かで健やかに育つ環境づくりを進める。また、これから親になる世代を対象とした支援を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
育児中の保護者		子育てを楽しんでいることができる。
育児中の保護者		安心して子育てできる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成果の要因分析
まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	%	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり評価アンケートで「子育てをつらいと感じている」割合が平成29年度の30.0%から、平成30年度24.8%に改善した。 ・平成30年4月に子ども家庭総合支援センターを開設したことにより、児童家庭相談受付件数が、平成29年度の2,756件から平成30年度5,143件へ大幅に増加した。 ・子育て応援プラザma*mallの利用者数が、平成29年度の7,150人から平成30年度10,230人に増加した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭総合支援センターの開設など相談体制の充実や、子ども未来基金を活用した民間レベルの子ども・子育て支援活動の活発化により、本市の子育て環境が向上したと考えられる。 ・子ども家庭総合支援センターを、子育て世代包括支援センターと一体的に運営することにより、妊娠・出産期から子育て、就学期まで切れ目のない相談体制が構築されたことによるものと考えられる。 ・広報もりおかにおいて子育て応援プラザに関する記事を繰り返し掲載することなどにより、本施設の認知度が上がったことによるものと考えられる。
当初値 (H25)	19.2	R1目標値	14.5	R6目標値	10.0
			問題 点	⇒	問題の要因分析
			<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり評価アンケートにおける「子育てをつらいと感じている」割合は、一定の改善が見られたが、依然として高い(悪い)水準にある。 ・虐待等の相談件数が増加しており、今後更に増加していくことが予想される。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害、貧困、虐待など、複数の困難を抱えている世帯が増加している。 ・核家族化の進行や社会経済活動の広域化により、父母(又はひとり親)のみで子育てをする世帯が増加している。

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 増加する児童家庭相談への対応を強化するため、職員を増員するとともに、岩手県との人事交流を実施した。 ★ 児童虐待の発生予防のため、要保護児童及び要支援児童のいる世帯を対象とした養育支援訪問(家事援助)事業を新たに実施する。 ☆1 地域子育て支援拠点の充実(盛南地区への新設、新盛岡バスセンターへの開設)を図る。 	